

明治三十七年十月三十日發行  
全月二冊第一冊二十日發行

# お伽 絵解 とどこ



第壹卷



地球儀ちきうぎまるいな。くるくまはれ  
手鞠てまりもまるいな。ころくころべ

地球ちきうと

手鞠てまりと

くるく

ころく

まーはつた。  
こーろんだ

トシヤとしかこゝにゐるよ  
トシヤ打ぶつてやろ  
泣面なみかほをかちいな

日本にっぽん強い。坊ぼうは

日本にっぽんの兒

伯父おじさんも

兵隊へいたいさんも 日本にっぽんの兒



大坂の薬港



金鶏光を放つ



神武天皇

さまか賊を

お討ちあそ

はす時金色の

鶴が飛んできて

弘のうへにとまり

光をサツト放ちました

賊はそれかたの目が眩

んで負て仕舞ひました



上古の軍艦



あうまて



んかんぐの今現

大阪は往古浪速と申しました  
神武天皇さまの御舟師が  
目出度う着いた土地で  
こゝいます

日本がロシアと戦争す

るといふ御宣言の出した

のは今年二月十一日紀

元節の日です。皆さん

よく覺はていらつしやい

僕は大將だ



はんざーい。はんざーい

露西亞の鼓手



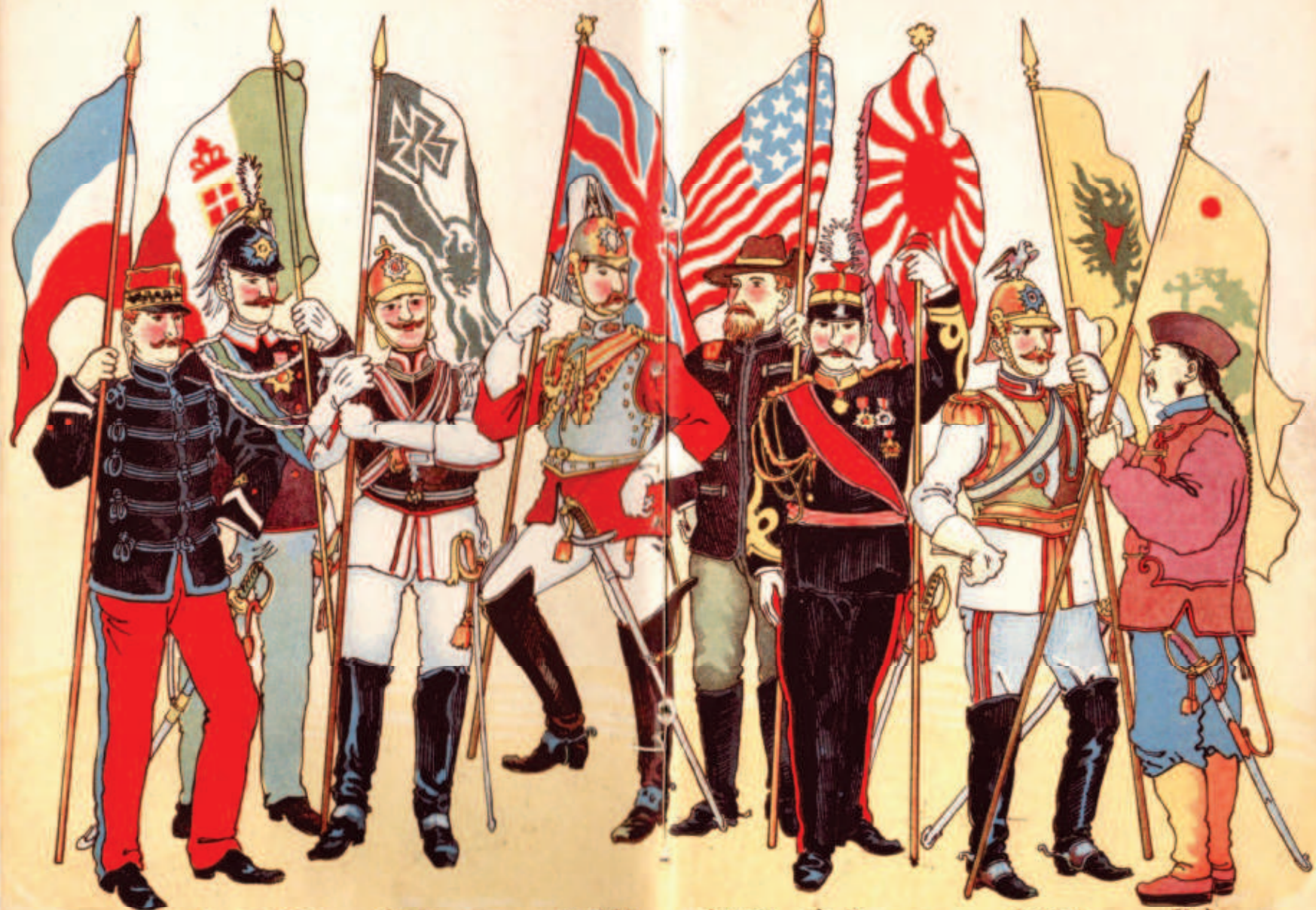
ドンドン

ドコドンのドコドン

日本はわい

逃げろ

世々各々國軍人



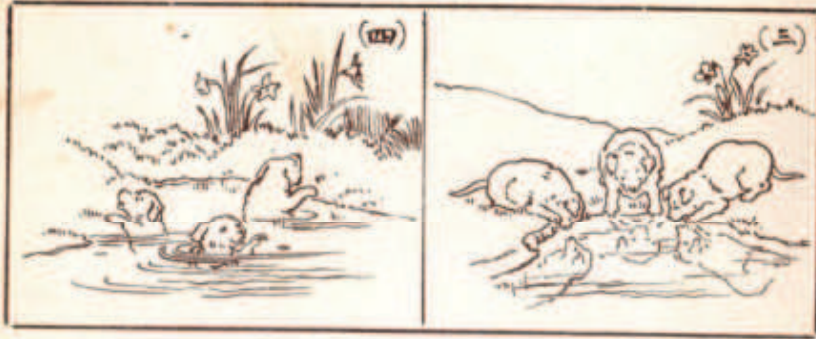
フランス イタリア オーストリア 普魯士 露西亞 日本 奧地利 支那



幼稚園

①ボートあそび

「また他處へ行つたら  
危いよ」と親犬は  
三頭の兒犬に諭  
しました



幼稚園

②つなひき

けれども兒犬は  
親犬のいふことを  
聞かずに川端へ  
行つてドンブリコ  
とはまりましたとき



野の春



京都村雲殿出品泉倉人形



大坂府立博物場玩具具展覽會



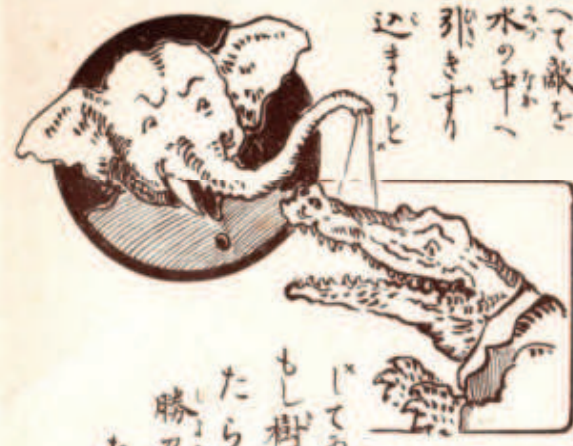
おあそびませう

おはやく行ませう

不許復製

明治三十七年四月三日發行 (第拾號)  
 發行所 兒童美育會  
 發行編輯人 小池伊三郎  
 印刷所 藤井護三郎  
 印刷所 改進堂印刷所  
 大賣所 文館  
 大賣所 中堂

太郎さん僕は小塊……花ちゃん  
 僕は秋峯……僕  
 等はこの雜誌のこと  
 ものお友達です  
 皆さんと一所一樂しう遊びませう



動物も人間と同じやうに時々戦  
 争を致します。御覽なさい。象  
 は尾を樹に巻きつけて一主懸  
 命です。鱷はまた大勢力を揃  
 へて敵を  
 水の中へ  
 引きずり  
 込ませうと

いてのまを。  
 もし樹が折れ  
 たら大變。  
 勝負はど  
 ちらで  
 せう？



— 可読物便郵種三第日十三月四年七十三治明 —

# お伽 絵解 もどこ

明治三十七年五月三日発行  
毎月二回(合計)四回三頁発行



第二號

行發曜日三第一期四二第 行發日三月四年七十三治明



お伽  
絵解  
もどこ

時々こつペーシ

には美しい彩色

印刷の廣告を

載せます

一冊五錢



軍神

海軍中佐  
廣瀬武夫さま

誕生地わ豊後國直入郡竹田の城下です、また兄  
さま武比古さまわ海軍大佐、現に大島艦長で、兄弟  
とも忠義な豪いお方です、武夫さま、三月二十七日  
再び旅順港の入口を塞ぐため、福井丸とゆー船に乗って  
進んで行かれ、どうとをこて戦死をなさいました、その  
勇ましさ、真に軍神（イクナカミサマ）でございます、われわれ  
が永く敬い奉るべき軍神でございます。

朝日艦が佐世保を出發したのわ、二月六日です、七日  
の夜別府大尉が二本の箭をもつて、士官室にあり驚  
の画に向いにほん（二本は日本）が彼奴（驚わロシヤの徽章）を  
この通りにすると、ハッとして驚の眼  
を抉り廣瀬中佐わ敵の海軍  
今に滅茶滅茶だとその  
画を引き裂いて仕舞わ  
れました、そこで

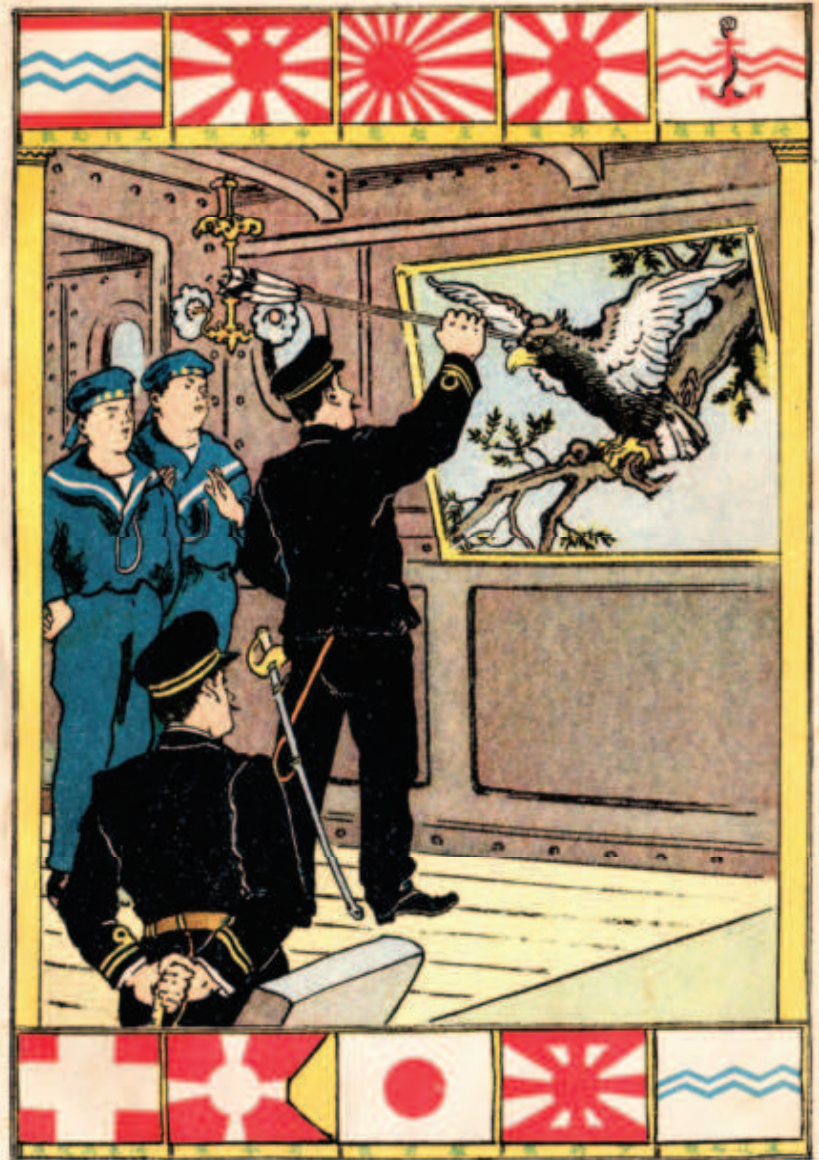
みなみな萬歳を  
唱えられまいたとさ。



飾ノ句節ノ月五ヲ蒲葺ヤ甲  
 ステ日祝現男ヲ句節ノ月五



遊ハシマ遊




繪ノ鷲と箭の本見ニ

和合一致

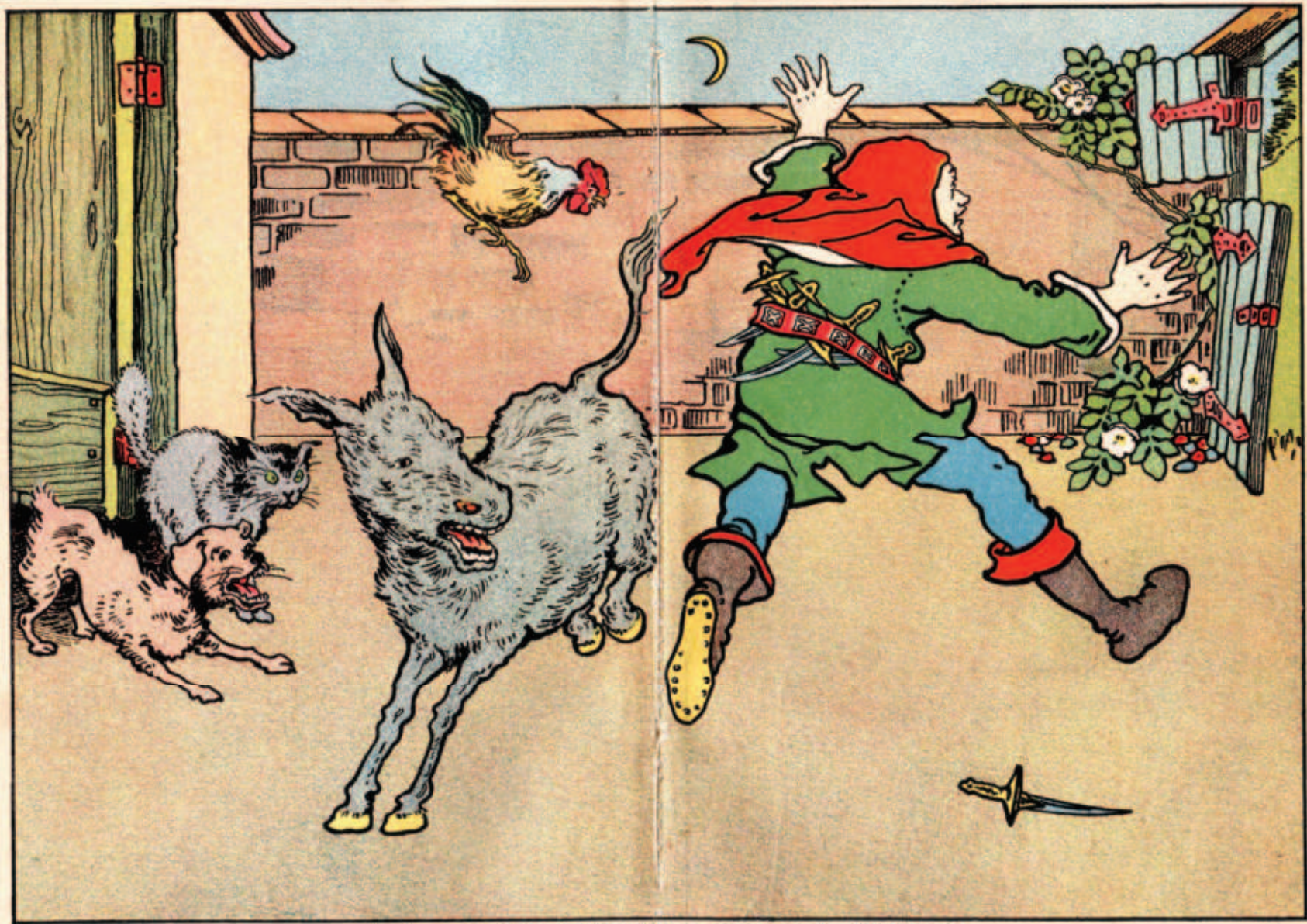
(西洋のお伽話)

小塊


 ままて荷物を運んでいた驢馬が老年になつて間に合わ  
 ないから、殺してしまをーと主人が思いつきました  
 驢馬はこれを覺つて逃げ、途中一頭のはヨロヒヨロヒと一犬に  
 出遇いました。ロバ「オイ友達どーしたイヌ」「私あもー年かよつて獵  
 も出来なし、主人が私を殺せーとするから逃げて来まー  
 た、ア、お腹がすいて歩けません。ロバ「僕と一所に来たまえ。音  
 樂師になろーよ。犬も早速承知して此方えやぞ来ると一頭の  
 猫が路傍に鳴いています。ロバ「君塩梅が悪いか。」「私あもー老

年で鼠を捕ることか出来ません、主人が私を川へ投げ込もー  
 とするから逃げて来ました、ア、どーしたらよからー。ロバ「僕  
 等と一所に来なさい。音樂師にな  
 ろーよ。猫も早速承  
 知して、  
 三頭連で  
 トボトボと  
 歩いてまいり  
 ました、すーと  
 今度も一羽の





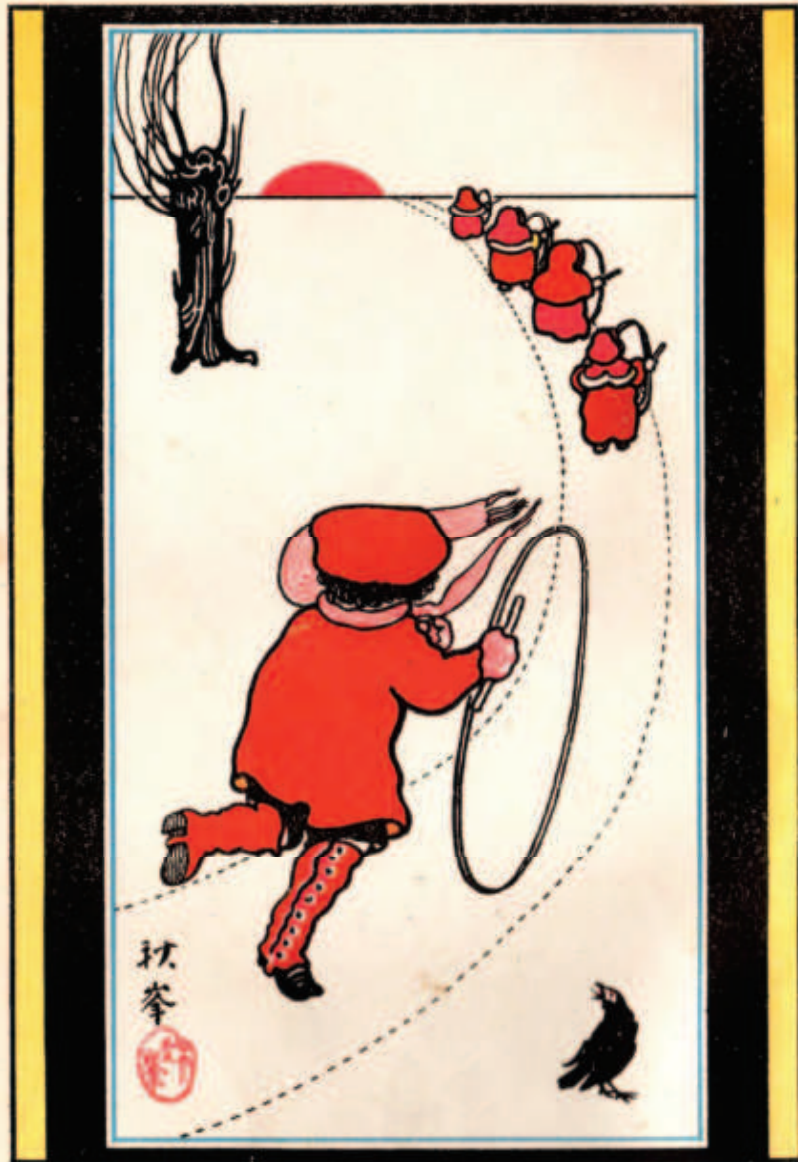
すまいて似に隊去のワヤシロわ人が遊のこ

雞が涙をホロホロこぼして鳴いています。ト「私の内の料理人が私を殺してソップをこしらえろと申しました。ア、悲しい。ソローか、かわいそーに僕等と一所に来なさい、お前さんお聲がよいから、皆音楽師になろーよ」雞も大賛成。さてその夜、彼等が寝る前に或る家の窓から燈火がさしたから、驢馬が内部を覗きました。どころか其所にお美味そーな物が澤山あつて、盗人がそれを食つて、最中ですよ。彼奴を追拂わねばならぬ」と驢馬お先づヒンヒンと鳴きました。引きついで、犬おワンワン、猫おニヤンニヤン、雞おココッコーと、鋭く鳴いたから、窓の硝子かビリビリ震きました。盗人おこれらを化物だと思ひ、びっくりして逃げて

仕舞ッたから四頭の音楽師おその跡え這入り十分の食物を得て永く樂しゆー其所に住みます。たどさ（おーま）この盗人お丁度ロシヤの兵隊に似てます。馬や獸類、さえ負けて逃げろとわ本當一弱い奴ておありませんか。皆さん笑つておやりなさい。



幼稚園  
 この間或る幼稚園に  
 まいりました。兒  
 童がこんな画を  
 かいていました。軍  
 艦や兵隊やみなを  
 さい、ものはかり、こ  
 れてこそ  
 本當に  
 強い日本の  
 兒童です



(日朝する舞) 籠元光ツ重い 兒



(一) 館元 族水

水  
族  
の  
世  
界  
に  
あ  
る  
魚  
類  
の  
多  
さ  
を  
し  
ら  
べ  
よ  
う  
に  
し  
て  
お  
も  
い  
な  
し  
よ  
う  
に  
し  
て  
お  
も  
い  
な  
し  
よ  
う  
に  
し  
て



いちま ちんご  
市松人形

ちまよあゆけ

あいやをあけて

ヨイヨイヨイ

チヤツチヤツチヤ

かちこいいちま

わたちのいちま

チヤツチヤツチヤ

ヨイヨイヨイ

明治三十七年五月三日發行（第三號）

（定價二冊五錢）

發行所 兒童美育會

不 發行兼編輯人 小池 伊三郎

許 印刷人 藤井 護三郎

復 印刷所 改進堂印刷所

製 大賣場所 盛 文 館

全 東京 堂

全 中 京 堂

皆さん、第二號、わ、第一號より、も、ズツと、よく、な、つ、た、で、し、よ、く、ら、づ、つ、て、御、覽、な、さ、い、  
第三號、又、と、ん、な、に、面、白、い、か、待、つ、て、い、ら、つ、し、や、い、水、族、館、の、フ、き、も、出、ま、す、兵、隊、さん、も、玩、具、も、美、し、い、花、も、出、ま、す、  
第一號の「上古の軍艦」あ「むし」の軍艦、「向來倉人形」あ「伊豆嶽人形」の寫し扱ひです

# お伽絵解 もどこ

昭和三十七年四月三十日  
 第五種郵便物認可  
 昭和三十七年三月三十一日発行



三 端

すませ載を告演の欄色を彩いし美はにジープのこが時



豊橋山町  
 大正佐野屋橋  
 發賣元 脇田盛真堂

厚五税郵 錢五金冊志價定



お伊勢参りもどく贈答

皇孫迪宮殿下の御受玩

金州南山大激戦

水族館(三)

幼稚園

いろどり

螢こい

緑の菘

二箇の林檎

脱太郎(お伽ポンチ)

シベリヤ鉄道とコサツク兵



アレ螢こい螢こい

軍艦の玩具にとり  
まつて

カーライトになつてくれ

アレ螢こい螢こい

兵隊の玩具にとり  
まつて

金鵄勲章になつてくれ



### 皇孫迪宮殿下の御受玩

皇孫迪宮殿下今年御四歳、動物類の玩具や旗や

ラッパや鉄砲やサーベルや軍艦の玩具が大層

お好きで、いつも活潑にお遊びあそばすと承わつて

おります、またお附きそ、いものものが軍歌をうと

ときわ、喜んでお聴きあそばさすそです。

誠に尊い勇ましいお方でござい

ます、皆さんも勇ましく成長

して忠義な臣民におなすうたさ

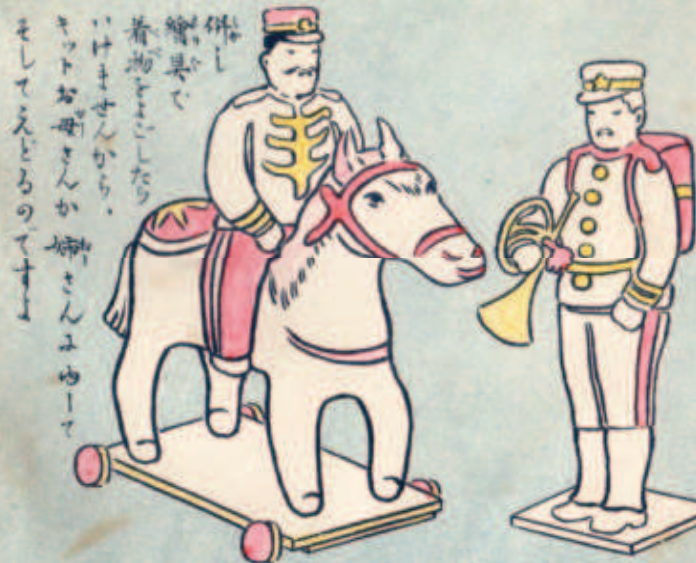
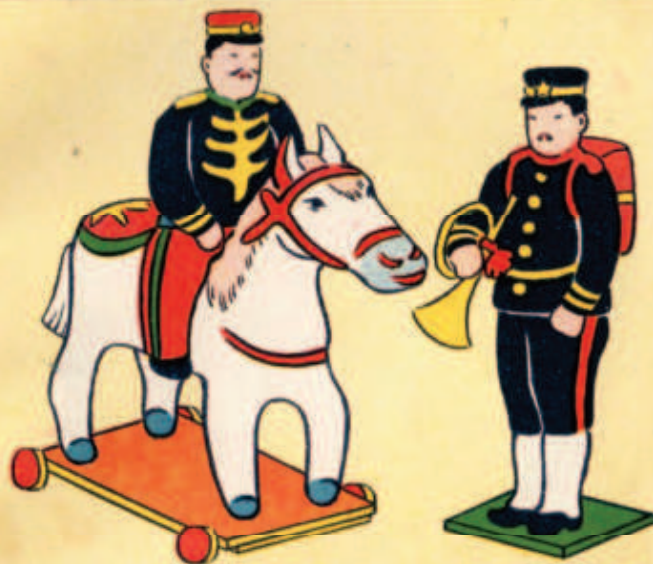


養子の緑



（一家の平和を祈り、お母さんより幸福です。お母さんより幸福です。お母さんより幸福です。）

(りどろい)



併し  
贈具で  
着物をまじしたり  
いけませんから、  
キットお母さんか姉さんユウイ  
そしてえどろいのですよ

この兵隊の兵隊さん  
えどろい御堂

幼稚園 (小鬼)

先生先生

オルガンからーて頑戴ふ

わたしわ唱歌をうたいます

先生先生

豆三こさえて頑戴な

わたしわチンとも休みません



ふたつの林檎

おいしい林檎

左の手のか赤が

右の手のか青が

ひとつわわたしの

ひとつわわたしの

はーやくあてて

ごーらんよー



金州南山の大激戦

五月二十六日第一師團、第二師團、第四師團を  
 金州南山を攻めました。敵は砲臺の前に壕  
 をほり、道路の隘道を  
 用意し、彈丸のあたりぬ  
 ー壕の上を掩いまた前  
 に地雷大をふせ鹿砦を作  
 り鉄條網を張つて、洋山の  
 大砲や小銃をトンドン撃ち  
 ました。たけれど日本軍  
 わ激しゆー突貫して敵を  
 追つちらし、とど其心を占領いたし  
 ましたとき、萬歳萬歳



戦い激び大のつ 山に南に州金



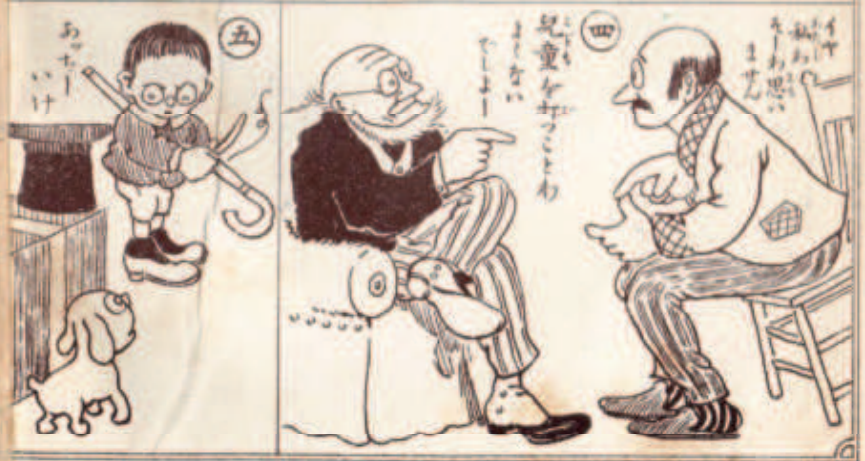
秋峯



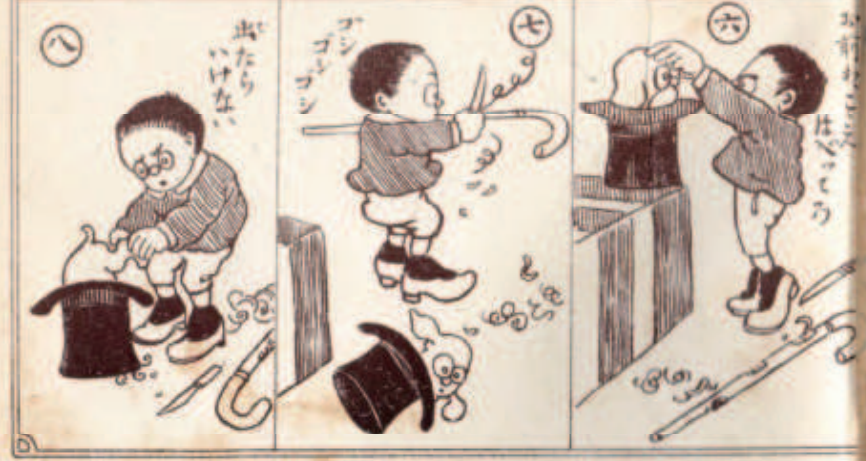
あんたが  
腕太郎  
(ホシ子)  
あつち  
外国におこ  
んな悪戯な  
児童がある  
と見えます  
日本にわど  
いでしょーか



おたつち  
親達わ平生  
餘程注意し  
て育てねば  
なりません  
併しこの人わ  
何故ナイフの  
よいなものを  
児童に持たせ  
たのでしょー

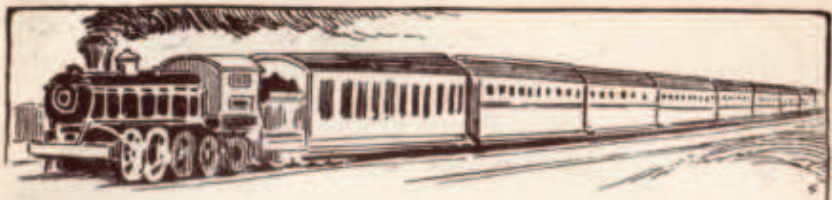


児童をサツことわ  
まじきい  
でしょー  
あつち  
いけ



お前ね  
はなつち  
ゴシ  
ゴシ  
出たら  
いけな





これわシベリヤ鐵道の瀛車

です。シベリヤ鐵道と

わロシヤの首都サン

クト、ペテルブルクか

ら遠くシベ

リヤ地方を横切つて滿洲に

通じた長い長い鐵道です。この瀛車に乗つてロシヤ

の兵隊わ、やつて来るのです。併し日本軍強から皆

まけて逃げて歸ることゝ極つてあります。するとコサツク

兵も亦馬に乗つて逃げる、まるで瀛車と馬とが逃

け競争をするよりなものです。おかしトやありませんか



第一号のことも第二号も大好と

よと太郎さんも花ちゃんも

ニツコリ、どーです。

この第三号を

すく御覽なさい。

また餘程奇麗

でしょ、面白

でしょ、第四号

にお軍艦やボートや

海や海水浴や泳ぎや川や池や白鳥や

を涼しい繪にかいてお話いたしましよー



不許複製

明治三十七年六月二日發行(第三號)

(定價二冊五錢)

發行所 兒童美育會

發行編輯人 小池 伊三郎

印刷人 藤井護三郎

印刷所 改進堂印刷所

大賣捌所 盛文館

東京 東堂

東京 寶堂

東京 中堂

毎月15日発行  
明治三十七年四月三十日  
東京新聞社印刷  
明治三十七年七月五日発行

# お伽絵解 七どこ



第四卷

時々のこべに美しき色彩の相を新装す

# 歯磨マダツ

歯を愛し愛す 歯を愛すは愛す  
 歯は生命の関門也 歯は生活の貴官也  
 歯の健全は身爲 最も務めべき事  
 五千餘萬の同胞よ 歯の養生を怠らば  
 齒牙健全の良法 最も善を得らば  
 必ハ印 歯を白く 齒質を善く 長けよ  
 齒磨界の大主と 譽を受け内外の  
 博覽會に最勝 賞牌之を証明せ

本舖 大野 芳吉 園



定價 五錢 (郵稅五厘)

明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可 明治三十七年六月三日發行

次頁号四第もどこ解贈物お

久保田小庵主任  
辻村秋春主任

軍艦旗掲揚  
夏場行場  
停子内  
汽止  
波止  
海邊の  
今市場  
可受らし  
幼物植園



日本わすれた大海國

軍艦旗掲揚

軍艦旗を毎朝當直  
士官が軍艦の上に掲  
げらるものです

其時わ君が代しの  
譜につれて最  
敬禮を行  
います  
とき



汽車の室内



いもりのろの習織かつかすま

夏の旅行  
(トナリ) (停車場)



山や海へ遊びにゆくの誠楽し

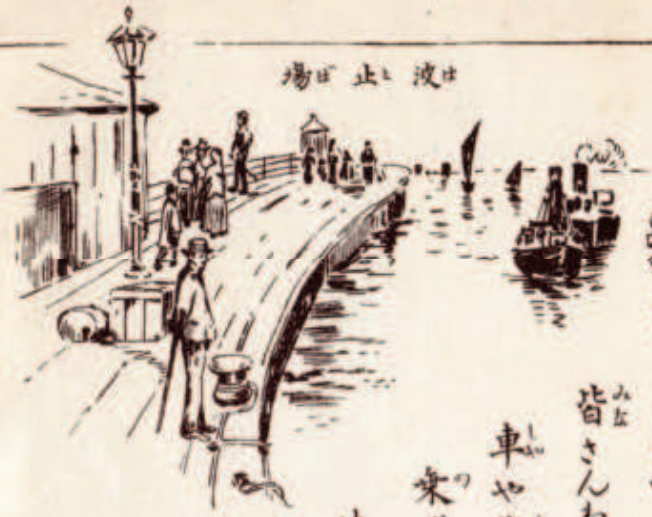
燈臺と燈臺船  
 燈臺や燈臺船を夜間の海を照らすための設けられたもので、燈臺船は海の浅いところに船をすゑ、その船の上に光輝をつけて海を照らすのです。このお蔭で船の方角がわかりやすくなります。



海水浴と温泉

海の水を浴びたり温泉に入ったりするのは、からだのため至極よろしい。身体が健康でなければならぬ、國民に在りことが出来ません。

場は止と波は



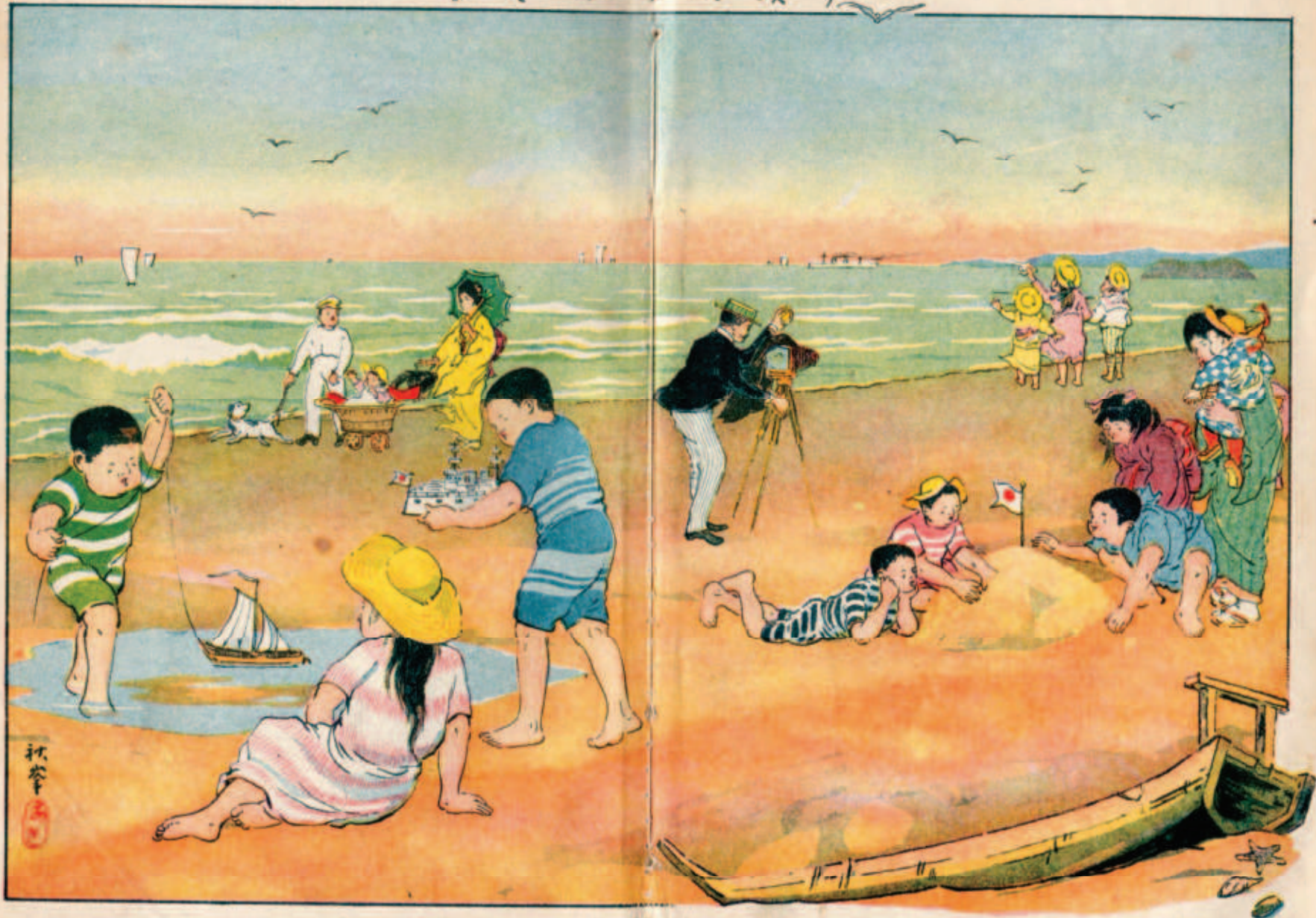
電車と汽船

皆さんわ汽車や汽船に乗って旅行するのわお好きでしよー

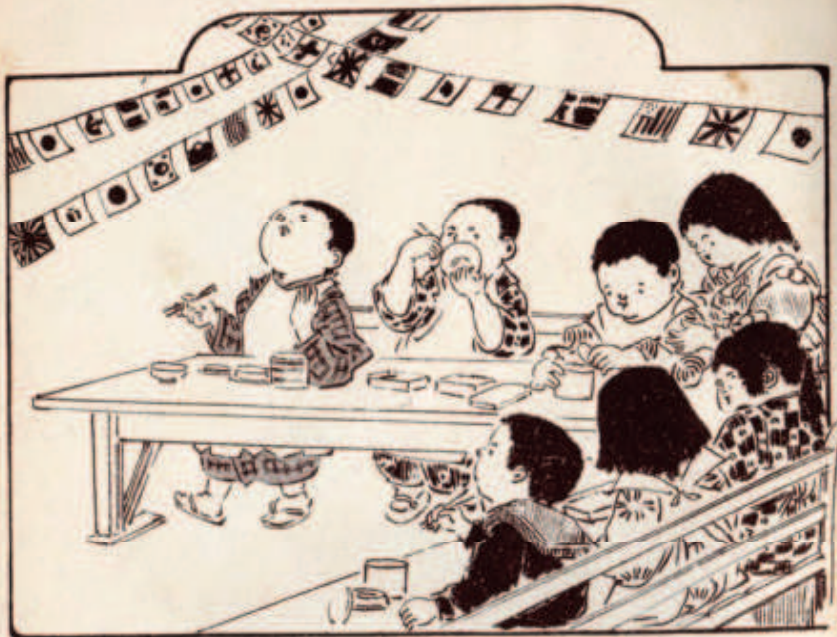
汽車や汽船に乗ったり遠いところへでも直ぐ行けます。なんと便利なものでありませんか。



ひそおのべみり



秋  
幸



いまかえ  
今歸ったよ

白よ黒よジヨンよ

海水浴から今かえったよと

兒童たちあ大喜び

留守番していた犬も大喜び

ワンワンワン

坊っちゃんお顔が焦げましたな

嬢ちゃん健康………うれしいな

ニヤンニヤンニヤン



幼稚園

わたしこどもよ わたしこども

こどもお雑誌 きれいな雑誌

こどもわこどもの お友だちお友だち

大阪市東區安土町一丁目、沈愛幼稚園  
 稚園は明治十三年に創立されたのです。  
 本年六月一日例年の如く記念日の祝いの式  
 が行われました。その時この雑誌こどもよが主役  
 の賞品として用いられたのを誠に名譽でございます。  
 また大阪市東區安土町一丁目、沈愛幼稚園  
 明治十九年の新築です。これも本年七月一  
 日例年の如く記念日の祝いが催され  
 ましたよ。幼稚園萬歳萬歳。  
 こども 萬歳萬歳。

(一) 物々植物 物々動物



葡萄  
ブドウ



石竹  
セキチク



蝉  
セミ



胡瓜  
キウリ



家鴨  
アヒル

可可愛い商店



うちわみせ  
うちわみせ  
はな  
花ちゃんや  
雪ちゃんや  
うちわみせ



お友達と遊ぼうと！おもしろいおねいばいません

市場え市場え

(西洋の子守唄)

市場え市場え  
 豚買いに豚かに  
 ふたふたふた  
 豚かいに  
 市場え市場え  
 豚かいに



日本にもそんな  
 のがあります  
 西洋の子守唄  
 意味何の意味も  
 なく節によつて面  
 白く諷ひつつけ  
 りが多しよす

第五號

「わまたまた皆さんの  
 お好きなボンチヤ水からくりの  
 遊戯や面白い  
 動物の  
 繪や  
 美しい  
 花や葉  
 物や船  
 や幼稚園  
 や唱歌や勇ましい戦争の話が  
 ありますから待っていらつしやい



不許複製

明治三十七年七月三日發行(第四號)

(定價冊五錢)

發行所 兒童美育會  
 發行所 小池伊三郎  
 印刷所 藤井三郎  
 印刷所 改進黨印刷所  
 大賣所 盛文館  
 東京市神田區春神保町  
 東京市河原町二条東入  
 名古屋中區深町三丁目  
 神戶市三町五丁目  
 吉岡書林  
 東京堂  
 盛文館  
 改進黨印刷所



お伽  
絵解  
もどこ

第五  
號

昭和二十七年八月五日発行



もどこ車

藤  
丸  
割藤  
藤  
藤  
藤

こども第四號 明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可 明治三十七年七月二日発行

大阪市東區大船場松田之助  
(電話一八三七番)  
定價每冊五錢 (郵費五錢)



(覽<sup>し</sup>樂<sup>を</sup>興<sup>つ</sup>) 一よしてろこどろいてしを何<sup>れ</sup>あれこ

北條時宗公  
幼名を正壽と申し、相模太郎と  
呼ばれました。十一歳の時鎌倉極  
樂寺の第で、馬上のまま小笠原の  
的を一矢に射あてたの此人です  
また弘安四年蒙古が攻めてきた時  
荒業の軍勢にいつけて之を撃ち  
退けたのも此人です  
朝廷は此人の功績をほめて今年明  
治三十七年五月従一位の位記を贈り  
れました



ビーン

シーソー

あーがったり

さーがったり

さーがったり

あーがったり

シーソー

シーソー



雙葉の梅檀

(北條時宗の如武)



をりますす  
 モーとないて  
 して牛わモー  
 をりますすそ  
 や瓜か煮て  
 そいな菓物  
 畑にわおいし  
 愛らしい草花が咲き

山わ  
 涼しく  
 静く川わ  
 庭にわ



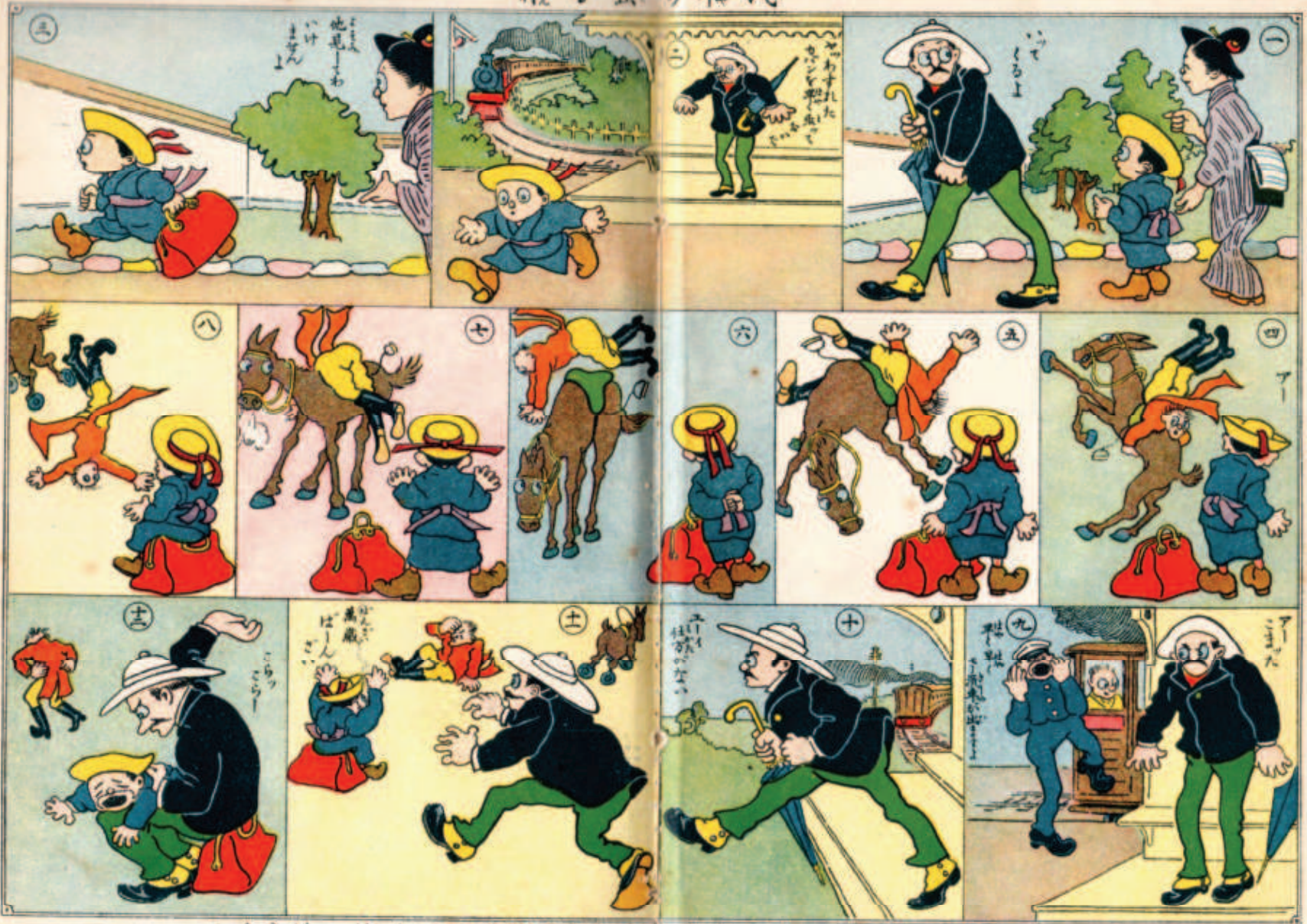
兄さんわ  
 この景色を  
 ながめて本  
 當に楽しい  
 よといいま  
 した



しい家 (暑中休暇)  
 健ちゃんワ兄さんわ都  
 會の學校え勉強に  
 行ッていきましたか暑中  
 休暇になったから自分  
 の村え歸ッてきまし  
 た  
 両親や弟妹わ皆よ  
 ろこんで之を迎えま  
 した



汽 車 の 出 る 前



んせまけいはねせにり|どのそぐ ぬらたれらけついいを事用親と



衛生隊わ擔架に負傷兵をのせてヨッシヨ

ヨッシヨ



とお話いたしましたので弟妹らも皆笑いましたとさ

輜重兵お荷物のかラガラ

馬ヒン



なから画をかいて  
ニッコリ笑いました、兄さん  
これわ步兵すすの進め砲兵  
ドーン

い くさの 話

兄さんお話して頂戴なと小さい弟妹らわい



エ、兵を櫓をけ

これわ騎兵の突撃



りくらが水と山鉢



すでのもるいて持を心の術美に然天あ童兒  
すまし軒と庭箱ハで京東山鉢わで阪大

(二) 物ら植物動



ホント 蜂 蜻  
ほんど

水芙蓉  
ふよー

ホー ツキ  
トモロシ

トモロシ  
トモロシ

桔梗  
キキョー

朝顔 (唱歌)

お母さんにもありて

種子まいた

朝顔わだんく

のびてきて

蕾がいくつも

できてきた

早く咲かぬか

朝顔よ

昨日の蕾が

咲いてきた



皆さん早く

ころんなさい

赤や白や

むらさきで

お庭がきれいに

なりました

あしたもいっしょに

早くおき

きれいなお花を

見せしよーよ

おそく起きたら

朝顔わ

みんな潤んで

しまいます

やさしい心

入のお爺さんが疲れて弱って林  
橋の樹の傍に腰かけていました  
兒童らわ之を見て親切に林橋  
の背を取ってさとお爺さんに食へ  
せまた近くの小川から清らかな冷  
たい水を汲んできて飲ませてやり  
ました

すべて老人を親切に世話するのわ

善いことです

サッ皆さんこれで下度五子にケリま  
した (号から子ヤンと勘えらと五冊です  
契度も前の号を繰返して御覧下さい  
株六号からわ一層面白く書やお話を  
載せますから楽しんで待っていらして下さい



なつなにしつがどしと たきでか脚付 たいつが脚 ござたのヨナケ

不許複製

ごともあだんたん健康にケリま  
したごともあますます可愛  
かられます  
ごともあまたまた大坂市東區の愛  
珠・沈愛・浪華・中大江などの幼稚  
園の賞品に採用せられました  
誠に名譽でございます

明治三十七年八月三日發行 (第五号)

定價(冊五錢) 郵税五錢

發行所 兒童美育會

大坂市東區南船場村字東船場百五十七番地

發行所兼輸入 小池伊三郎

大坂市東區和泉町二丁目一番地

印刷所 藤井藤三郎

大坂市東區和泉町二丁目一番地

大賣所 改進堂印刷部

大坂城支館 東京東京堂

京都寶文館 彦屋中京堂

神戸吉岡支店

明治三十七年四月二十三日郵便特准第三號

# おどろ

## お坊 絵解



第六號

第五號

元費發

小林富次郎  
小林支店

玉の舞



# イオン はみかき

原五祝郵 錢五金所定 才ませ載を告廟の標色彩しい美はにジ一へのこの時

明治三十七年四月二十三日郵便特准第三號 明治三十七年八月三日發行

大和魂 (昔の全ウラナ) 美しい心 (児童の正聲) 太郎の夢 (月世界飛行) 秋の野 (雁雁恨) ウ鏡 (鯛ひき) 虫の歌 (寄歌) タマの復讐 (犬と蜂) 幼稚園 (室外遊戯) 若葉 (葉まの幼時)



悔のツギ



蜂はちわウウンともブンとも  
いわずタマの目のふ  
ちを刺さしました



あそぼー  
その晩げんタマわ内うちにかえり  
エー決けつして知らぬもの  
とわ遊あそばない  
と顔かほをしかめていました

ろ日ひタマわあそびづれを  
さかすため外そとをあらいて  
一いつびきの蜂はちにであいました  
オーうつくしい地ちちゃん僕ぼくと一いつ所ところにおいでよ  
岡おかにあかッて



心いしくつう



児童が總体に画をかくことが  
好き見ることが好きらしい  
これを生れついでに  
うつくしい  
心です



秋の野々 雁の飛ぶに列をたらしめて





郎の夢

わどんな夢

玩具店に 玩具が

サーベルや 鉄砲や

軍艦や

ドツサリ 風船 巻や

ラツパヤ 旗や馬や自分

の好きなものばかりを

自分ツ一番好きなお母

さんに買ッても  
らッて汽車プー  
に乗り



坊主大將だ

萬歳

萬歳と旗

を振るので

すそれから

おいしいおい

しいお團子

頂戴



姉さんと一所

にお月さんを

拜んで風船

巻を持ったま

まフワリフワリ

と天に上り おもしろい鬼  
の餅つきを見たのですこさ



きざらむ若



秋

夢の郎太





あかむらさき

(紫式部の幼時)

紫式部あ 源氏物語と

ゆい本をこしらえた人

です小さい時お父さん

為時か兄さんの惟規に

本を讀むことを教えるのを

傍できいていて兄さんより

先におぼえまうた



これわ紫式部が  
大人にオウた時  
近江國石山寺に  
然請し月をながめて  
文章を  
考ふところす

虫

の歌

あたしわ松虫 月まるとよ

あたしわ鈴虫 鈴ふらよ

チロチロチロリ  
チンチロリ

露の玉が こぼれます

すいかに風が そーよそよ



魂 和 大

ず

ツと

兵士の



む

かしの

兵士の



い

まの

あせ



かくら

大勢一隊十は  
如何なるにも格くす

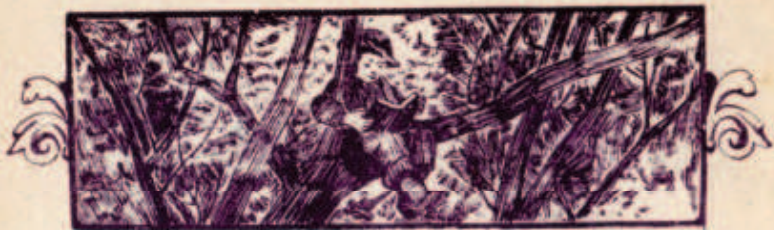
きい  
な





衣食住といつて食物着  
物住居お人間の一番大切  
なものです

第七號 にあそこれらの面白い  
画やお話や往古の兒童養  
育の歴史画を掲げましょー



明治三十七年九月發行(第六號)  
 發行所 兒童養育會  
 大阪府東區和泉町丁目字番地  
 銀行通堀小 池 伊三郎  
 印刷人 藤井 三郎  
 大阪府東區和泉町丁目字番地  
 印刷所 改進堂印刷部

定價 一冊五錢 郵税五厘  
 大賣場 大阪 文館  
 東京 東京堂  
 京都 寶文館  
 名古屋 中京堂  
 神戸 吉岡支店

明治三十七年十一月二十三日第三種郵便物認可  
 昭和六年十月十日發行(毎月一回)のちのち發行

あゆ 絵解  
 もどこ



第七号

どこも第六号

流行新色

ろざし糸

流行の花あ  
 ろざしの帯止

洋装ドレス



明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可 昭和三十七年九月三日發行

形刺しさろ(越)布紹生

町堂嶋市院大 電話 電  
 (番八百二十四東) せ見糸 ちごち 入へ西橋青心

(度五税郵) 冊五冊壹價定



神嘗祭

五十鈴の宮の大前に

今年秋の懸税

御酒御帛と たてまつり

祝ふあしたの朝日かけ

なびく御旗り かかやきて

賑ふ御代こそめでたけれ



十月七日  
神嘗祭  
今年秋の  
懸税  
賑ふ御代  
こそめで  
たけれ

神嘗祭  
豊年ヲ喜ビ  
女の手わざ  
永食住  
秋ノ山  
唱歌  
少年郎連  
茶火輪車  
カチクリ



よたてがもどこ 心もち健2イオ  
よたてがもどこ

ごわ手の女

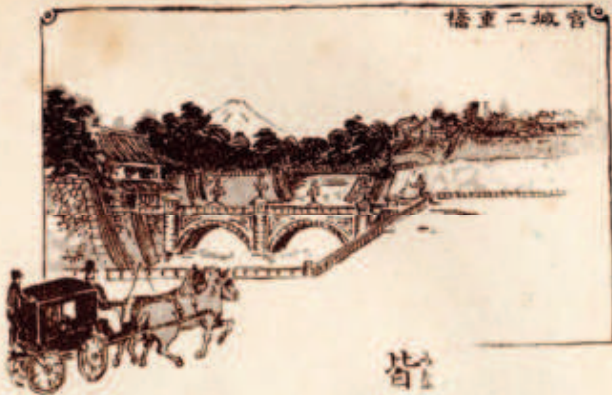


とこだ手の上 かくしなとお荷をりんさ花屋もんやち清

び喜の年を置け



すべて聞る米は出いてよの米おし申と園の穂 瑞きわ本目  
 一コフコフコはしえしれいひでま 朝の朝の朝



この他 麥や粟や黍や いろいろの豆や芋や 瓜や大根 蕪葱 など 皆結構な食物です

衣  
食  
住

皆さん 私の着物お綿布です 綿布の綿糸を織ったもの 綿糸お綿から紡績し出したもの その綿お畑に作られる植物で 愛らしい花が咲きます

また私ともが毎日食べる米も 田や畑に作られるもので 田に作られるのを水稲 畑の方のを陸稻と申して 丁度秋に熟るのでございませす

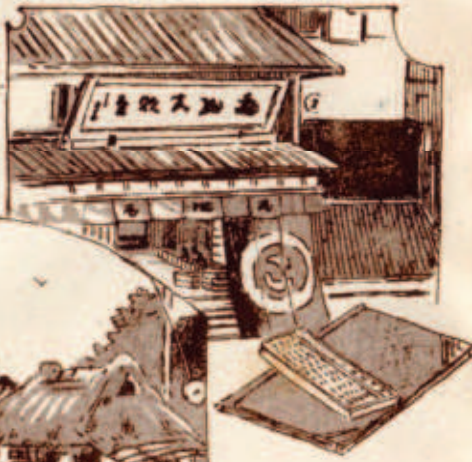


併し 着物と食物だけでわいけません 是非住む家とゆーものがなくては困ります

さてその家にも 品品のございます 御覧なさい

これお東京の宮城二重橋の

圖です 宮城お取ち 天皇陛下の御住居おそばす 尊い家です



都會にお商人の家が賑わしく

店をならべ 田舎の村にお農人の藁ぶきの家が安らかに建てありませす

山 の 秋



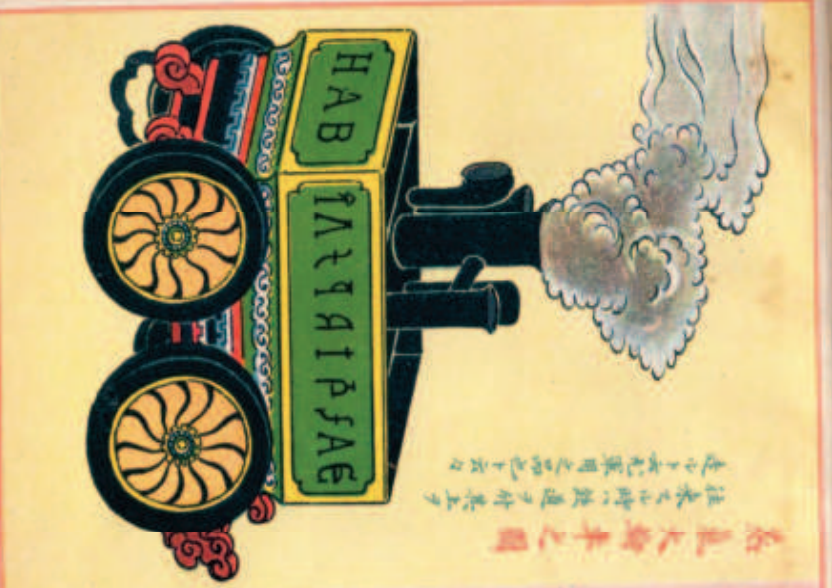
いさなと強<sup>ク</sup>勉<sup>ク</sup>よでん遊<sup>ク</sup>よ

いふじもお會<sup>ク</sup>動<sup>ク</sup>運<sup>ク</sup>えや持<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>

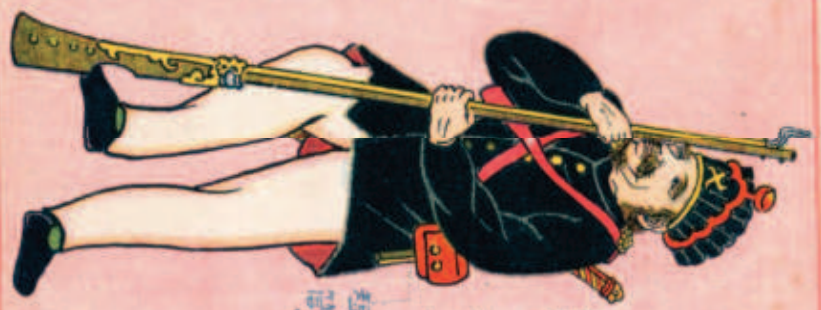
秋







往來之時、鉄道ヲ行來ス  
是ハ大輪車之圖



先防戰士  
士冠 竹例之大將及  
波帶、上官也  
短筒



アメリカの使者ベネリーとゆー人が日本へ来たのわ五十年ほど以前です。かその少し後に出来た書物にわこんな圖をいって汽車のことを蒸気火輪車と名づけてました。また海軍士官の形もおかしやありませぬか。それから見ると今お皆さんのお好きな書物も繪も餘程進んたります。皆さんお幸福です。



僕モ日本ノ勇士ダ一度  
 蟹ドンノお供シテ殊々馬工渡ッタ  
 モノダ  
 ソラロシヤ兵ガヤテキフラッダゾ  
 僕ガ地雷火ニナッテコマソ  
 ドーン ドーン バチバチバチ



十一月三日わ 天長節 誠に目出度い目出度い日です。から君が代を祝ひ奉て次の第八號にわ奇麗な奇麗な面白い 菊の花の趣向をお見せ申しましょー

不許視衆

明治三十七年十月三日發行(第七号)  
 定價五錢 郵税五錢  
 發行所 兒童美育會大  
 發行兼編輯人 小池伊三郎 堀  
 印刷人 藤井雙三郎 所  
 印刷所 改進黨印刷所

大阪興文館  
 東京東京堂  
 京都寶文館  
 名古屋中京堂  
 神戸吉岡支店



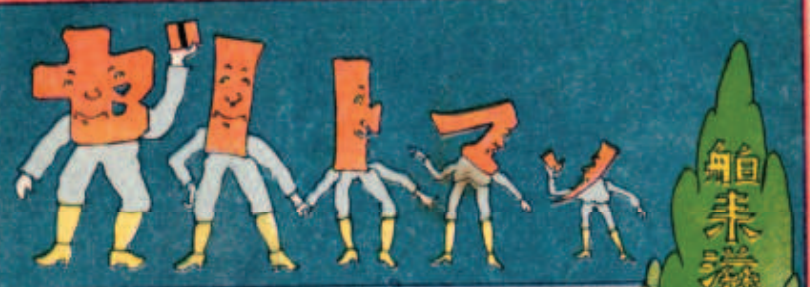
明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可  
 昭和三年十月十日發行毎月二回(郵券)四角五分

# お伽絵解 七どこ



第八號

## 七どこ第七號



舶来滋養食品

桃太郎  
 桃太郎  
 おーきくなつてー  
 かーさん  
 ソマトーセ項戴ナ  
 人形またべさせて  
 モットモット  
 肥きくすもんですから



(厚五税部) 錢五冊壹價定

明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可  
 昭和三十七年十月三日發行



(唱歌)

お庭の垣根の菊の花

色あなにいり

兼てみれば

赤も黄色もまた白も

みな美しく

咲きそろうた



菊の草花  
 菊の草花  
 こりつた  
 紅葉の茶  
 赤り湯  
 可愛い大母  
 菊の湯  
 菊人も  
 似合ふ風流



葉の葉を  
 らやてせ着 錦の葉が来でん鹿 来い来い鹿



らやてせ見をのる出の鹿汽 来い来い鹿

ンサカツオ ヌサカツオ  
 ヨイタキユニサクイモ一ホ  
 ヨイタキユテシラナバツラ



バツラのこ

# 乗り物

御所車お屋形のある牛車で昔  
身分のよい人が乗ったものです  
また古くから興とゆーものがありました



これわ手に持つて運ぶのです  
後世に駕籠ができました  
これお肩で并くのです徳川  
幕府のころ諸侯も駕籠に  
乗りました普通の人も駕  
籠に乗つて旅行をします



それからだんだん世が開  
けて駕籠の代りに人力車  
ができましたと進



んでありかた  
便利な汽車  
ができ馬車か  
でき電車か  
自轉車ができ自動  
車かできました

電車お電氣の力に依つて鐵道の上を  
走るもの自動車お自轉車の一層進  
んだもので發  
動力の機  
械で獨りて



に動  
きます  
から便利です





今度でもお遊ばし観望めす めすーす てーとろ歌軍

り成は是わ菊の郎次

り遊婆お菊の郎次

# 稲の語

新嘗祭(十一月二十三日)あ  
天皇陛下が今年できた  
稲を神前に供えて御自  
身にもめしあがる日下

稲のお話  
を共しま

しよー  
私にも食  
物お米が  
第一です  
お米お稲



けるのです

これを田植と申します。それより穂が  
でて秋の成熟を見るまで、お尋常の  
苦勞であありません  
さて千ヤンと賞のつた稲刈り入れて  
稲扱て穂を扱き磨いで扱(米の

の貴です稲お  
春のころ苗代  
に穂子を蒔き



扱ひまた取れ方(いもり)の皮をすり  
割り唐箕にかけてその皮の屑を散  
して仕舞って米はかりを残し次に  
筵にかけてその米の中  
から板唐白(いたばら)にかけた時から  
皮をむけすた残っているものを今一度よく換  
り除けらうです併しこれおまた玄米  
(アロゴメ)と云って直ぐ食べらうことかて  
きません。そこで一旦体に詰めて  
置き次に唐白で搗いたのが白  
米(シロゴメ)でございます





(如安と五郎) 度々思いたる合の似

この繪の中  
に  
皆さんのお好  
き  
なものが五個  
あります



何でしよーり？  
さかして置いて 次の龍を  
御覽なさい



また一層おもしろい  
繪やむはなしが澤  
山ありますから

天長節の唱歌

こどもの名歌



今迄の集英館の雑聞お決りご一新作の  
唱歌をうたあせるこゝです  
今日おもしろいお説  
奇話を聞か 花かごし  
君が八十代と うたはしよー

明治二十七年十一月十日発行 (第百九号)  
定価二角五分 郵金五分  
発行所 兒童美術會  
東京市神田區小池田三郎  
印刷人 川上隆二郎  
印刷所 アルビ印刷所  
支店 東京市神田區小池田三郎  
支店 東京市神田區小池田三郎  
支店 東京市神田區小池田三郎

おはなして、わんぱうで育つて  
まはすはす可愛かられます  
「わんぱう」またまた美味、集英  
館堂、お鳴、浪奇、高き等の知  
性、お賞品に採用されました



明治三十七年三月五日發行  
每月二回(金)四(五)日發行

# お坊 繪解 七どこ



香部向新柄種  
陳列場お徳時所観覽を致す



大  
大阪心齋橋三丁目  
下むら吳服店

明治三十七年四月三十日第三種郵便物認可  
明治三十七年十一月五日發行



軍艦の旗



花と鳥





ある獵好きの人 獵に出かけましたか少しも  
獲物がございません仕方なしに歸る途中アト  
免らしものを違か前方に見とりましたから  
直ぐズドンと一發

右のたゝ

よゝ家苞かてきました

犬わ宙を飛ぶよゝに走そその獲物をくわえて

主人より先にか家に歸りました

ところが案外それわ免てわなく免の皮

でございしました



雄ちゃんの阿母さんわホホホとわろゝて

その皮を雄ちゃんに着せました

雄ちゃんわ犬よろこび!!

主人わそれとわ知らず自慢顔に歸つて

きましたか不意に雄ちゃんの姿を見

てびっくり

阿母さんわまたホホホと笑いま

したそしてその姿のまま雄ちゃんをわ

て今度わ免の澤山いる丘んゆきました

雄ちゃんわますます上機嫌!!!



# 兎

わみな不思議そーに此方をながめて  
あれ何たろー？  
仲間でもなさそーな  
と私語きました  
とさ



秋  
拳



# 動物學校

象先生  
動物學校の生徒にわ 猿や  
獅子や虎や熊や豚や 驢馬  
や 麒麟や兔や羊やカンガルー  
など澤山いますから 象先生  
の苦勞は尋常ではありません  
其中にも一番腕白なのが猿九  
てこさいます



二月二十五日お耶穌降誕祭と申して  
西洋の兒童の一番のふりこぶ日です

それわその前夜すなわち二十四日

の夜に サンタクロースとゆうー

お翁さんが玩具を

もってきて呉れちもの

と信じられてゐるからです

サンタクロース サンタクロース

その名だけ聞いても兒童わうれしかり

ます 本當に二十五日朝の愛らしい笑

顔が見せとーごさいます



にーいーなけまに先 ントきつ 附  
コト コト コト

満州州の児童



日本兵と見えてはつて居る

動物物学学校(一)





# コカヨツコ

コレヲカイテ コランナサイ  
オモシロー

ゴサイマスヨ

## 軍艦の旗 (説明)

- 一 碇泊旗、軍艦旗
- 二 戦闘旗、信賞旗、大將旗、司令旗
- 三 大祝日の滿艦飾
- 四 外國に行つて禮砲する時にあつた國の海軍旗を掲ぐ
- 五 歸國旗
- 六 降参旗



(説明) 軍艦碇泊  
(戦闘中) 前旗

(外國より歸つてくる時に掲ぐ)  
(ロシア軍艦の降参)

さて、新年の初號にあつて、  
皇孫殿下御遊戯の圖を最新式  
に寫し奉つて掲げます

また、動物學校のつづき、

わ皆さんか思はず手をたた  
いて萬歳をおしやるほど  
愉快に勇ましゆー活動し  
てまいります

そして、もう新年のお祝  
ひに皆さんの本當にお好きなお好きを面  
白(しろ)物(もの)を附録として進ませよう

明治二十七年十一月三日發行 (第九卷)  
定價二角五分 郵税二角  
大正市東區高島町三丁目二番地  
發行所 兒童美術會  
高島町三丁目二番地  
印刷所 小池伊三郎  
川上三郎  
川上三郎  
印刷所 改進堂印刷所  
大正市東區高島町三丁目二番地  
印刷所 改進堂印刷所  
大正市東區高島町三丁目二番地  
印刷所 改進堂印刷所  
大正市東區高島町三丁目二番地

その物は何でしよーり  
本當に面白、珍らしいものですよ

キント待て、らっしやい  
左様なり

前號の増録し  
とす皆さん五個とも  
當りましたか



明治二十八年四月三十日第三種郵便物認可

# お助け絵解 七どこ

明治二十八年六月一日発行  
毎日一冊一冊発行

安藤氏并其事務所 第三種郵便物認可 第三種郵便物認可 第三種郵便物認可 第三種郵便物認可 第三種郵便物認可



拾號

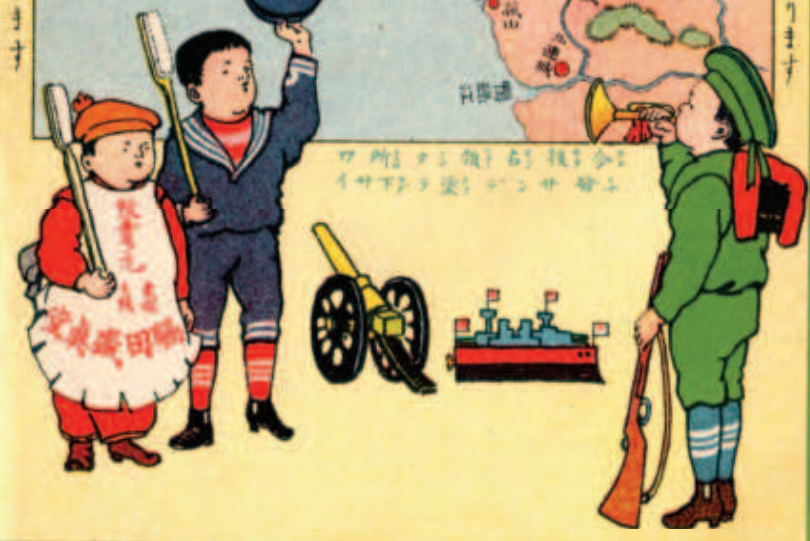
七どこ第九號

# ベビードン



この山を新こきります

の便れたる事ハ世々ノ間にてとります



この山を新こきります

定價五錢 (郵便五厘)

明治二十七年四月三十日第三種郵便物認可 明治二十七年十二月三日發行



新年の山

あの山こえて この山こえて  
年のはじめの 山鴉

カーカーカー



朝日あニツコリ 先づあけまして  
太郎の門松 大きい左

オメデト







イゴキコイ

練兵場

太郎の練兵場にお市松上等兵や ゴム人形の  
一等卒や その他いろいろの兵隊が立っています  
勿論太郎お大将で一二廻れ右えーと威張って 號令

すりの可愛らしさーござます これがすむと次わ  
大輸送

兒童らわ  
兵隊を  
みな玩具の  
汽車に乗せて  
見送りの



萬成萬成！  
ビーゴット  
ゴットと汽笛  
や汽車の動  
く真似を致  
します

斥候

サー今度わいよいよ  
戦場です斥候が土境  
や林に隠れながら敵の様子を 偵察  
したり 狙撃したりするところ誠に勇  
ましいのでありますんか

軍艦奏組

彼等おまた海軍の兵士になりたか  
ります 御覽なさい 机を送るに  
軍艦に見せた勢カ





秋  
葦



ジョンとゆい犬が不意に兵隊を一箇くわ  
えて走りましたおつれ戦争ごとを潰したな  
コシヤえヤッて任舞うどとハッて 兒童らわ

ジョンを縛リつけ  
ました

ジョンを捕虜に  
なつたが直ぐ繩  
を外して逃げま  
した次わいよいよ  
砲臺の守備!!!



逆襲

ヤーヤー 敵が逆襲して  
堡壘に押寄せてきました

みなみな  
一生懸命に  
防いでいますと



(二) 動物の学校



すて場が動い運しおれこ いさな 寛し樹

トゴサクイ

これだけ軍山兵隊が  
守つていれは大丈夫なを  
太郎お自慢して  
太郎お自慢して  
とびつけまじ  
大とま





お伽  
絵解  
もどこ



第七拾號



恭賀新年



京都 大阪 飯田 呉服店 本店 支店  
 東京 大阪 飯田 呉服店 支店

定價每冊五錢 (郵費五錢)

昭和五年四月五日日本三報社發行  
 明治三十八年正月一日發行

かみゆづり解も一十夜日次  
 久保田小魂  
 辻村秋峰 主任

春の神さま  
 元節  
 記元節  
 名譽花  
 夜の光  
 ニキナ  
 動物学  
 梅のか  
 鳥の姿



東の山あかかやいて

霞の幕の間から

春の神さまニツコリと

小鳥をやらか花やらか

とちりも下さい歌いましよ

みなみな下さい祝いましよ

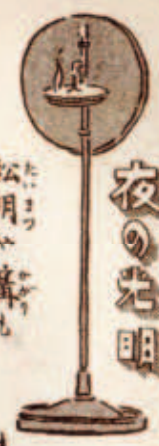
こどもの顔の機織節

こどもの顔の機織節





夜の光明



松明や篝も また光明のひとつです

後に燈臺や短檠(燈臺の短いもの)や  
燈籠・燭臺・行燈・提燈  
などが出来ました

行燈お路を行く時に用いたのが  
始まりです 今お提燈お祝いの



スッと昔油や紙燭(紙燭に油を浸して火を点  
す)りや蠟燭のな時代もありました



行列や宴會や  
開店の飾りにも用い  
られるよーにナリました

世が段段進むに

つれて光明を

取る方法も

進み石油

洋燈わ

勿論瓦斯燈や



光づいてきたのです 文明のお蔭で  
暗いところが減ったのです

電氣燈の  
バツと照  
らす有様  
お誠に愉  
快であり  
ます

ツマリ人間の  
智恵が  
學問のため

帝國萬歳





すでびそあ、白、面、を、滑、り、法、を、お、け、な、雪、



す、で、の、も、た、づ、降、て、づ、氷、の、氣、蒸、水、お、雪、



運動場にお獅子や虎までが  
無邪氣に遊ぶ位ですからの

腕白な猿丸をぞ  
あ一倍面白か  
自転車に乗り

廻ります

すると猫も負けない  
意になつてハイカラの  
姿で帽子をふりな  
ら真先に走ります



さすが象先生も  
生徒らの餘り面  
白そーに遊ぶのを  
見てジツとしてい  
られませんか  
とこで自分もまた  
飛び出して闘毬  
戯の仲間え入り  
れましたが猿丸お  
こんな時こそ一着



先生を突驚させてやろと  
象先生を目かけて毬を投  
けつけました それかうまく  
カんと象先生の大きな鼻  
に當つて同時に萬歳の聲  
が处处に起りました  
その夜象先生お寄宿舎  
を見廻り生徒らの可愛  
い眠顔を見て思わすニツコリ  
致されました

梅のかり



動物學校

その次お試  
もすんで  
いよいよ  
免状おなし!!!  
優等お中道  
油漬なごとなし!!  
免君でござい  
ました  
動物學校  
萬歳萬歳





不許複製

明治三十八年二月一日發行（第一巻）  
 定價一冊五錢 郵税五錢  
 發行所 兒童美育會  
 小池伊三郎

大改訂 川上猪三郎  
 印刷所 改進堂印刷所  
 大改訂所 大改訂所



梅ノカノリ



菅原道真

小名を阿呼といいました

参議是善の第三番目のお子です

十一歳の時梅の花の詩を作ってお父さまを感  
 心させ後に右大臣になられました 學問が優れ詩  
 も歌も上手で徳が高人でしたから遂に神さまに  
 祭られました 天神さまとゆーのわ即ちこの神さま  
 です 京都の北野や流前の大宰府や大坂の天満  
 や東京の湯島や龜井戸や其他

諸國に天神さまの

神社がございます



# おゆ 絵解 もどこ



昭和七年四月三日第三種郵便物認可  
 昭和八年二月一日発行

光野の巻

告 號 壹 拾 第 も ど こ 廣



征露 紀念 勳章印

續表六期編カマシ系



特製編初用  
 備回式絹糸製  
 レース糸



大坂市順慶町 糸也系見世 電 番  
 (寄八百二十四東) 八二橋橋心

(厘五税郵) 錢五冊売價定

紀念  
 糸  
 花  
 旗  
 舞  
 踊

昭和七年四月三日第三種郵便物認可  
 昭和八年二月一日発行



桃の節句



よしまえ供養よしえ供養キダタイにラクザブチも今わ子し果おのまき難お

みやてせえいまき難[中略]かーし[中略]男[中略]おつせまおつせ  
なせてけおを難しむ置てかーし[中略]節[中略]果[中略]おつせまおつせ



三月



# 人形の話

りのは年を百二  
遊の雛の村



昔は雛人形を持って  
遊ぶことをヒイナ遊と  
いきました 今ゆー  
ママゴトの類です

雛人形とあ鳥の

雛のよーに 小さい  
意味で 紀州加太の 乗島神社に  
雛の由緒のあるの 粟島の神さま

遊の雛の村に廿七十六百



見の  
人形の

少彦名命が 高皇産靈尊の 御掌上に載せられて ござった時  
お落ちなさったほど  
御神体が小さかったから  
と申します  
兔に角昔わ紙雛  
などを作って平生  
の遊びにしたのが  
後の世にあ

雛の昔の伊太利



今雛の遊



三月  
三日  
に限られ  
てお節句の  
雛祭とゆー  
ことになつた  
のです

とらふらふ たらふらふだた 花のたもとたもとたもと

たがすふふお転のりより上り 水がたてやせいのこた



空の春



一サヌニヤチルメラ一五六



### 愛ラシイ孤兒

御覽なさい ニッコリとしたお氣の  
無い顔を……また五歳でウエーテ  
イアウ大メルチヤンスキーとゆー名です  
この兒のお父さまは ロシヤの士官  
でしたか 鴨緑江の役に戦死し  
お母さんお病氣のため旅順で七  
くになりましたそこでステツセル將軍  
の夫人が不慮に思つて自合の子  
のよーにして育て旅順の降伏と  
同時に本國へ連れて歸つたの  
であります



別院に收容されてますが、この愛らしい妹  
のことを尋ねたりキツと涙を浮かべらるでしよー

十九 今お停務となつて  
名古屋の東本願寺

またこの兒の兄さんお  
士官候補生で年齢お

箱具玩具

鬮  
發鳥鹿猿



鬮  
三香駒

鬮  
加太  
守雄



鬮  
古千匹猿



鬮  
形人良茶



鬮  
琴比羅土偶



車子  
柳川



鬮  
國兒童の遊戯



告 廣

磨齒メロバツ



元 青 發  
 日 十 五 標 商 商 標 大  
**園 香 芳 野 矢**

價 定 冊 五 錢 郵 稅 五 厘

昭和二十七年四月三十日第三號郵便物認可 昭和三十八年六月一日發行

ことば 第拾貳號